

第1回運営協議会 議事録

2025/05/23 15時～ @産社室+

1. 開会（進行：教頭）

あいさつ（会長）

- ・青翔高校の歴史について（統合から20年が経過）。
- ・山口校長のもとで、新たなプロジェクトが進行中。
- ・夏に青翔高校で全国高校生環境サミットを実施。
- ・県の教育委員会と玄海町、青翔高校によるコンソーシアムの決起総会。
- ・学校経営について協議を重ね、有意義な時間にしていきたい。

あいさつ（教頭）

- ・20年前、唐津青翔の開校時から6年間勤務。
- ・公募があったため、自ら志願して赴任。
- ・たくさんの課題と大きな可能性に向けて、地域との連携が不可欠となっている。
- ・今後の更なる発展に向けて、意義の大きな会となる。

2. 学校運営協議会について説明（教頭）

- ・昨年度から協議会委員が2名増え、より厚みのある議論にしていけることを期待。
- ・2, 3ページは各自で読んでおいて欲しい。
- ・新たな取り組みとして、P.5の「(3) 本年度の重点目標」にあるように、コンソーシアムの発足などが挙げられる。
- ・P.6の「②成果指標」について、具体的に説明。
- ・（会長より質問）青翔タイムでは具体的にどのようなことを学んでいるのか。
（教務主任より回答）基本的には国英数の学び直し+読書。学年により差異あり。
- ・P.7～9について軽く説明の後、各自で読む時間を1分間設ける。
- ・（委員A）食育について具体的にどんな取り組みをしているのか。
（保健主事）基本的には家庭科の授業内で指導を行っている。
- ・（委員B）心の弱い生徒に対して、どのようなサポートを行っているか。
（主幹教諭）スクールカウンセラーを招いたり、ピア・サポートプログラムを実施したりしている→企画部主任よりピア・サポートプログラムについての補足説明。
- ・（進路主事より進路について）昨年度は就職する生徒が多かったが、今年度は進学希望の生徒が多く、多くの上級学校と連携を取りながら、選択肢を拡げていく必要がある。また、地域の企業とも連携が不可欠であり、多くの企業に来校していただきながら、就職活動の解禁に向けて準備を進めている。1・2年生に向けても、専門学校や大学、地元企業の方々と交流できる機会を提供している。

3. 協議 学校魅力づくりについて および 4. 質疑応答・意見交換

- ・(主幹教諭より P.10 について) 県内外と問わず志願者を増やしていくためにどうすれば良いか、熟議を重ねていきたい。

- ・(委員 A) 現在感じている具体的な課題はどのようなものか。

(主幹教諭) 一番大きいものは住居の問題。知らない土地で、一人で生活させるのは心配が大きいので、できれば下宿させたいが、下宿先が足りていない。アパートを建設中ではあるが、食事の提供については目途がついていない。

(委員 C) 旅館の活用ができれば良いが、どうか。

(役場) 九電関係の方が部屋を埋めることが多いのに加えて、宿泊費が極めて高い。

- ・(委員 D) 県外生への支援が多く議論されているように感じるが、バスの減便に伴って地元の子どもたちが通学できないという問題にどう対応していくのか。

(事務長) 令和元年度まではスクールバスが出ていた。運行をし始めた時は離島からの通学生も多く、スクールバスが埋まるくらいに多くの生徒が乗っていたが、最終年度には利用者が1人だけになり、年間900万円の利用料がペイできなくなってしまった。市内の生徒を対象としてスクールバスを出すことは人数的に難しく、民間のバス会社も採算が取れていない、そして県もそこまでのお金を出すことができないため、現状としては解決策がない。

- ・(委員 D) 各家庭からバスの利用料を徴収して、スクールバスの運行費用を賄うことはできないのか。

(事務長) 全員が学校からのスクールバスに乗ってくれるのであれば、各家庭の支出をある程度抑えることができると思うが、家庭の送迎や民間のバス会社を選ぶ生徒がいることも想定できるため、現状よりも支出が大きくなることが予想される。

(委員 A) 通学にこだわるよりも、唐津市の生徒も生活できるような下宿先を用意する方が良いのではないか。

- ・(委員 E) 玄海町にバスはないのか。

(会長) バスはあるものの、昭和バスの路線と重複することができないため、時間や路線の調整が難しい。のるーと玄海(玄海タクシーに委託)はその利便性から好まれている。

- ・(委員 E) 学校の魅力化推進と通学手段の確保は両輪であり、どちらかが欠けると生徒の募集には繋がらない。アクアリウムをやるにしても、仮屋湾を活用して、青翔高校でしかできない学びを実施していく必要がある。日本の漁業が半分以上養殖になっている現状において、里海を活用した教育は大きな魅力となる。

- ・(会長) 大前提として、青翔高校は県立高校であり、県費で賄う必要があった。しかし、志願者数の減少によって廃校が現実味を帯びてきている現状、前提を覆す必要があるということで、玄海町も多く支援を始めている。

- ・(委員 F) 自動運転のバスを防災課に提案している(Willer: バスの運行会社)。運転手

不足がボトルネックとなっているのであれば、この案で解決することができると考えている。佐賀県に働きかけて、2・3年後を見据えた動きを進めているところではある。通信の町であるという特徴を利用していくべき。

- ・(教頭) 誰がするのか、どの組織が進めるのかという問題が多くあるが、県と町と学校とで手を取り合って、問題に取り組んでいかなければならない。そのためにコンソーシアムを発足したという経緯がある。交通の問題は本校発足当時からあるが、協力して進めていきたい。
- ・(委員 F) 岩沢さんの意見に同意。廃校をリノベーションするなどして、唐津市内の生徒でも活用することのできるような下宿先を用意することが現実的ではないか。空き家の開拓も進めているので、数人規模の下宿は用意できると考えている。
- ・(委員 A) 住居の広がりや足枷となっているのであれば、ルートから大きく外れている生徒にのみ下宿を開放して、主要なルートに乗ることのできるせいとのみを対象としたバスの運行などを検討してはどうか。
- ・(主幹教諭) 地域みらい留学について。今年度はコンソーシアムマネージャーを招いて、地域に根差した教育をアピール。個別説明会に予約が複数名入るなど、これまでにない手応えを感じている。東京で行われる合同説明会などにも参加し、さまざまな方面へ広報を行っている。県外生にもアピールできるような魅力を整備することが、最終的には地元の生徒を含めた志願者数の増加に繋がると考えている。
(CN より補足) 地域みらい留学の目的地は、地元への還元。みらい留学に参加している他の高校を見てみても、本校の魅力は引けを取っていない。現在2年生に在籍しているみらい留学生は成績もトップであり、その子にしか見えない景色を本校に還元してくれているため、そのような流れを強くしていきたい。玄海町を愛してくれる生徒を育てていきたいと思っている。
- ・(進路指導主事) 現在、高校でeスポーツを学んだ生徒の進路開拓を進めている。大学も生き残りをかけて様々な事業に取り組んでおり、大学としても喜んで提携を行っていききたい。専門学校でも、ゲーム開発会社への進路整備を進めており、そのあたりの繋がりも強めながら、進路を整備している。現実的には、高卒でゲーム関連会社に就職することは難しいため、高卒求人の道を探しながらも、進学先を広く用意するために、パイプを繋ぐ取り組みを続けている。
- ・(委員 G) 協議会に参加して6年間、バスの問題を中心として多く議論されてきたが、そうした問題の解決に向けて、高校生も議論に参加をしながら取り組む流れを見ることができて良かったと感じている。福祉業界には多くの外国人労働者がいるものの、やはり住居や通勤の問題は大きい。電動自転車の活用などが議論されているものの、自転車のルールや道路交通法をどのようにして教えていくのか、などといった課題がある。
- ・(主幹教諭) 次回の学校運営協議会では何をテーマにしたら良いか。
(委員 A) 魅力的なまちづくりなどが良いのではないかと。具体的には、「夢を叶えられる町

とはどのようなものか」など。

(委員 F) 多くの町に置いて、空洞化という問題がある。解決のためには、進学先や就職先の整備が急務。そういう観点で、進路指導主事より現状の取り組みを聞くことができている。また、第一次産業が中心となっている玄海町の特徴を生かして、スマート農業の活用などを考える必要もある。若い人にとって、農業に対するイメージは決して良くない。そのイメージを払拭できるような体験ができると良いのではないか。服を汚さず、汗もかかない農業の在り方。次世代を担うデジタルエンジニアの育成に向けた議論を行わなければならない。DX について言うと、プログラマーも枯渇している。e スポーツ、スマート農業、プログラミングといった特徴を持つ企業が玄海町に生まれると、非常に良いだろうと感じている。

- ・(委員 H) 3 名の新卒社員がいるものの、3 名とも入社時に運転免許を持っていなかった。5 月 23 日現在においても、1 名のみ免許を取得できているが、他 2 名は仮免許すら取得できていない。校則という問題もあるが、自動車学校の教員不足も問題となっている。また、自動車学校の費用も高くなってきており、喫緊の課題となっている。
- ・(委員 E) 西鉄バスが、高校生を採用していた。免許の取得に補助を出すなど、志願してもらえ企業との在り方を模索していく必要がある。
- ・(委員 H) バスの運転手になりたいという高校生がいたとしても、準中型や大型免許を取るための費用が高く、断念する家庭もある。
- ・(委員 E) 玄海タクシーとの協力体制を築くことも大切。
- ・(会長)「将来に希望はありますか」という質問に対する肯定的な反応が、全世界的に見ても極めて少ない。働き方に対する考え方も大きく変わってきており、「必死に働いて大きな成果を残したい」と思う人間よりも、「楽に面白く働きたい」と思う人間の方が多くなってきている。教職員の数も不足しており、小学校教諭の志願倍率は 1 を切っている。こうした現状を踏まえて、まずは地元を好きになる教育を目指すことが大切ではないかと考えている。お世話になった故郷に恩を返したいと思ってくれる生徒が増えれば、現状の課題がいくつか解決されるのではないだろうか。学校現場も速いスピードで変化しており、紙の教科書がなくなる日も遠くない。今ある職業が将来もあるとは限らない時代において、教育の在り方を常に考えていかなければならない。そうした意味でも、こうした協議会における熟議を大切にしていきたい。
- ・(教頭より閉会) これからの学校について考えるとともに、目の前の教育についても考えていく必要があると考えている。それも熟議していきたい。